

1 学校教育目標

○思いやる ○自ら学ぶ ○やり通す

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒の学ぶ意欲を向上し、自らを鍛え学力を伸ばすことのできる学校 ○生徒の社会性を育成し、人と協力しながら課題を解決する力を身に付けることができる学校 ○地域・保護者に信頼され、力を合わせて生徒を育成する学校
○児童・生徒像	○思いやりの心と規範意識をもち社会に貢献する生徒。 ○向上心をもって自ら学び、目標をもって最後までやりぬく生徒。 ○心身ともに健やかで夢や希望を実現する自立した生徒。
○教師像	○生徒の個性を理解し、よさを伸ばそうと深い愛情と情熱をもって指導にあたる教師 ○謙虚に自己研鑽に励み、強い責任感をもって生徒・保護者の期待に応える教師 ○組織の一員として教育活動に取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- 学校について：閑静で落ち着いた地域環境と整った施設に恵まれ、充実した教育活動が展開されている。学校運営上のいくつかの課題はあるが、地域の協力も得ながら学校運営を行っている。学校の魅力づくりとその発信に力を注ぎたい。
- 生徒について：明るく裏表が少なく人懐こい。諸行事等に意欲的に取り組む。自分と社会のつながりに気づかず高い理想や夢に向かって努力しようとする気持ちや態度がやや欠ける。一部生徒の規範意識に課題がある。
- 教師について：生徒の立場に立ち、その成長のためによく努力する教員が多い。生徒指導力、学習指導力等の一層の向上が求められている。
- 保護者・地域について：学校を支え、大いに協力していただいている。保護者会等への参加数の増加と地域の教育資源の活用拡大が課題である。

2 前年度の成果と課題

〈成果〉

- 全教員担任制を導入して生徒理解が進んだ。一教員任せにせず学校、学年教員全員で対応できた。また上級学年ではリーダーの成長が見られ主体的に学級や学年をまとめていこうとする姿勢が見られるようになった。制度への保護者の理解を深める。
- 「授業改善推進校」の研究に全教科で取り組み、主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、理解が深まった。引き続き授業改善を進めたい。
- 読解力向上を目指した取組をさまざま実施した。国語において成果が見られた。
- 家庭学習ノート「東島根っ子ノート」の活用により家庭学習の定着が計られた。

〈課題〉

ア 学力向上アクションプランについて

- ・国語においては2月の学力定着確認テストで1年生、2年生共に長文読解や記述問題に大きな課題が見られた。
- ・数学では1年生は四則の混じった計算や比例・反比例の、2年生では1次関数の定着に課題がある。また問題を読み取り問題の解決を図っていく力に欠ける。
- ・英語では2月の学力定着確認テストで1年生の正答率が極めて低い。口頭では言えるが記述する力が身に付いていない。1・2年生共に英作文に課題が見られた。また問題自体を読み取れていない生徒も多い。

イ その他

- ・情緒面で不安定な生徒や規範意識の薄い生徒数名の対応に苦慮した。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	授業改善の推進		○	○	○	○
3	キャリア発達の促進	○	○	○	○	○
4						

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題			達成度 ◎○△●		
意欲的に学習に取り組む生徒の増加 区学力調査通過率の向上		年度末学力定着確認テスト正答率 60% R4 区調査通過率 65%	年度末学力定着確認テスト正答率 55.3%	学力定着確認テストにおいて1教科は目標基準を達成した。授業、補充教室、家庭学習で定着を図る。			△		
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業力向上	全教員	年間・全授業	・足立スタンダードの徹底めあて→課題解決的な学習(主体的・対話的)→生徒によるまとめ・振り返り ・課題解決する場面を設定	年3回 自己申告面接 授業観察 教員アンケート	全教員が80%以上の授業で足立スタンダードを実施	・転入や新規採用教員以外はほぼ実施した。 ・課題解決する場面の設定に工夫が必要	・授業改善推進校の研究を通して基礎学力定着としてまとめ・振り返りの効果を実感した。	○

2 継続	ICT機器の有効活用	全教員 全教科	年間	・映像提示等の意欲を引き出す活用 ・課題解決学習で調べ学習や思考の共有化のための活用(1人1台タブレット)	年3回自己申告面接・授業観察・教員アンケート	全教員が学期に1回以上活用	8割以上の教員が毎日タブレットを活用している。	デジタル教科書や図の提示が多い。今後、課題解決学習で生徒に活用させていく。	△
3 継続	朝補習(+放課後補習)サマースクール	全学年(指名・希望)国・数・英中心	年間を通して朝補習週4日定期テスト前に放課後補習	【指導者】教科担当を中心に全教員 【取組内容等】 ・朝20分間学力補充 ・定期テスト前に放課後補習を実施 ・7月末～7日間のサマースクールによる学力補充	今年度区調査の通過率 年度末学力定着確認テストの正答率	学力定着確認テスト正答率60%以上	学力定着テスト正答率 国語64%数学49%英語54%	・全学年で数・英を中心とした朝補充教室を実施 ・テスト前の放課後補充を実施 ・サマースクールはコロナ感染拡大で5日間だけ実施	△
4 継続	読解力向上・朝読書	全学年	年間を通して週4日	・朝読書週3～4回20分間語彙力向上の取組 ・週1回読解力向上ワークシート・短作文	ワークシートや短作文の確認 R4区調査(国語観点別)	取組状況100% 書く力10% 読む力10% 前年比UP	・取組状況は年々良くなってきている。 94% ・書く力16%、読む力0.9%前年比down 全国値との比較ではほぼ差なし	・新たに3年生は天声人語を読んで200字作文、2年生はよむYOMUワークを実施 ・全学年で中高生新聞を活用した新聞タイムを実施	○
5 継続	家庭学習の定着(家庭学習ノート)	全学年	年間を通して毎日	・独自の家庭学習ノート ・授業の振り返りを基にできなかった内容の克服、重要ポイントの復習 ・自ら課題を設定できない生徒へ課題の提供	ノート提出率 学力定着確認テスト	提出率90%以上 学力定着確認テスト正答率60%以上	提出率70% 国語64%数学49%英語54%	・ノートの提出率が徐々に上昇 ・学年だより等で取組方や良いノート紹介等の啓発活動を実施	○
6 継続	学習コンテスト	全学年5教科	年間5回	・国・数・英を中心に5教科で実施	各コンテストの正答率	正答率80%以上	正答率76.2%	コロナの影響で年間4回実施	△
7 継続	年度末の学力確認・補充	1・2年全員国・数・英	2月初旬～3月下旬	・2月上旬学力定着確認テストを実施 ・学力定着が不十分なところを授業・朝・放課後等を活用して補充	学力定着確認テスト	学力定着確認テスト正答率60%	学力定着確認テストを2月5日に実施 正答率 国語64%数学49%英語54%	2月後半から3月及び春休み中を使って補う。	△

重点的な取組事項－2		授業改善の推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
教科指導において「主体的、対話的で深い学び」の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に関する校内研究の実施 ・小中連携や授業観察等で全教員が3回以上の研究授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けて年間6回の校内研究会を実施 ・研究授業は2回実施 	コロナの影響はあったが全教員が前向きに授業改善に取り組んだ	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携における合同研修会と研究授業	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会を2回、指導案検討・研究授業を6回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に基づいた授業づくり ・学習指導案に小中連携の視点を明記 ・講師を招いて教科指導法の研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響のため一部C4t hやZoomを活用した研修になった。 ・都教職員センターの指導主事や大学教授を招聘して研修会を実施 	コロナで思うようにはできなかった。来年度は研究の焦点を絞って小中の教員で研究していきたい。	○
校内研究・研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究・研修会を年4回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの過程を重視した単元指導計画・評価計画を作成する。 ・問題解決の場面を入れた学習指導略案を作成し研究授業を実施する。ICT機器の活用 ・3観点による適切な評価について研修・研究する 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間6回の研修会の実施 ・指導案集の作成及びリーフレットの作成 ・2月3日に公開授業と研究発表会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や教科、研究授業、演習等盛り込んで有意義な研修が実施できた。 ・研究発表会はコロナのため中止 	◎

重点的な取組事項－3		キャリア発達の促進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
キャリア教育における取組等を通して将来や今の自己の生き方について考え・表現できる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査「努力をすれば、自分もたいいのはできると思う。」85% ・区調査「地域に貢献できる大人になりたい」65%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査「努力をすれば、自分もたいいのはできると思う。」83.8% ・区調査「地域に貢献できる大人になりたい」59.7%であった。 	達成基準には達しなかったが昨年度よりややUP1.4%up 0.6 %up 次年度はキャリア教育の教員の理解を深めたい。	△	
B 目標実現に向けた取組み					

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情を育む実践	<ul style="list-style-type: none"> 区調査「自分にはよいところがあると思う」70%以上 生徒主体の活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 小中の生徒・児童交流の実施(中学校体験、部活動交流、百人一首合同練習、合同演奏会等) 学習コンテストや各大会上位入賞者等の表彰や掲示 生徒会による主体的な活動 	<ul style="list-style-type: none"> 区調査「自分にはよいところがあると思う」67.3% 生徒主体の活動の充実 	<p>昨年度より1.8%down 行事等が十分にできず良い面を發揮できない生徒が多い。</p>	△
コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> 区調査「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ。」60%以上 「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」60% 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科で言語活動を取り入れた工夫ある授業の実施 生徒朝礼の充実(発表場面の設定) 2年生のプレゼンテーション面接の実施 校長講話200字作文の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 区調査「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ。」46.9% 「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」61.9% 	<p>昨年度より9.5%down 各授業で発表させる場面が増加しているが、自信のない生徒にとっては負担も増えていることも考えられる。</p>	△
不登校生徒等への支援	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒における不登校生徒(30日以上欠席)の割合5%以下 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有により不登校生徒等への理解を深化 教育相談コーディネーターを中心に家庭、SC、SSW、関係諸機関等と連携 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒の割合7.4% 	<p>小学校から引き続き不登校及びその傾向の生徒が年々増加している。 関係機関とも十分に連携を図っていきたい。</p>	●

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【成果】

- 授業改善推進校として、教科の枠を越えて全教員が積極的に研修・研究に参加した。生徒の学習意欲向上を目指して生徒の話し合いや発表などの言語活動の充実や授業のまとめ・振り返りの持ち方、家庭学習の充実について研究を進め、日常の授業実践に反映できた。
- 全学年において読解力向上に取り組んだ。特に新聞を活用して概要をまとめたり、感想や考えを作文したりすることで社会や生活の中の出来事に触れ、知識や考えを深めることができた。
- タブレットを問題解決的な学習のためのツールとして有効活用できる教員が増えた。
- 今年度新たに、生活指導部内にQU担当を置き、年に2回の研修会を行い、生徒理解に努めて学級づくりや教科等指導に反映した。

【課題】

- 情緒面で不安定な生徒や規範意識の薄い生徒数名の対応に苦慮した。
- 不登校生徒の割合が昨年より約2%増加した。コロナの感染状況によって様々な登校スタイルがあり、生活リズムをつかむことが困難であった。
- 将来の夢の実現のために、行ける高校ではなく行きたい高校を目指し努力する生徒を育成できるようなキャリア教育の実施が十分にできていない。

【対策】

- ・キャリア教育について教員の理解を深め全学年・学級で様々な場面で展開できるようにする。
- ・SC やSSW、げんき等の関係機関と十分に連携しつつ、QU の分析等も活用して一人一人に寄り添った対応をできるようにする。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者や地域の皆様には、日頃から本校を応援していただき心から感謝しております。コロナウイルス感染症により残念ながら学校公開や行事においでいただくことが十分にできていません。また例年、地域で行っている行事やボランティア活動にも参加できず、生徒が地域の良さに触れ、大切にしようとする心を育てていく機会が少なくなっています。学校の現状や生徒の頑張る姿を直接に見ていただけない分、お子さんの家庭での一言や数名の校外での行動が学校全体の状況としてとられがちですが、コロナ禍の中で教職員が一丸となってコロナ対策、学力向上、落ち着いた学習環境づくり、進路実現等に最善を尽くしております。尚一層、学校の教育力を高めていくために学校・保護者・地域が信頼し合って連携していく必要があります。引き続き本校の応援団として、温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

子ども達がこれからの変化の激しい社会を主体となって生き抜いていけるように、中学校教育の担うべき役割の大きさを自覚し、日々の授業や様々な行事、部活動、委員会活動等に熱意をもって取り組んでいきます。前例踏襲は事実上の後退と考え、常に前年より改善を目標に効果的な対応策を考え新しい時代にふさわしい学校教育を進めていきたいと考えます。どうぞよろしく願いいたします。

1 学校教育目標

○思いやる ○自ら学ぶ ○やり通す

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学ぶ意欲を向上し、自らを鍛え学力を伸ばすことのできる学校 ○生徒の社会性を育成し、人と協力しながら課題を解決する力を身に付けることができる学校 ○地域・保護者との信頼関係を構築し、力を合わせて生徒を育成する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりの心と規範意識をもち社会に貢献する生徒。 ○向上心をもって自ら学び、目標をもって最後までやりぬく生徒。 ○心身ともに健やかで夢や希望を実現する自立した生徒。
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の個性を理解し、よさを伸ばそうと深い愛情と情熱をもって指導にあたる教師 ○謙虚に自己研鑽に励み、強い責任感をもって生徒・保護者の期待に応える教師 ○組織の一員として連帯感をもちチームで教育活動に取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

○学校について：閑静で落ち着いた地域環境と整った施設に恵まれ、充実した教育活動が展開されている。学校運営上の課題はあるが、地域の協力も得ながら学校運営を行っている。学校の魅力づくりとその発信に力を注ぐ必要がある。

○生徒について：明るく裏表が少なく人懐こい。諸行事等に意欲的に取り組む。自分と社会のつながりに気づかず高い理想や夢に向かって努力しようとする気持ちや態度が十分に育っていない。一部生徒の規範意識に課題がある。

○教師について：生徒の立場に立ち、その成長のためによく努力する教員が多い。生徒指導力、学習指導力等の一層の向上が求められている。

○保護者・地域について：地域には学校を支え、協力していただいている。行事以外の授業参観や保護者会等への参加数の増加が課題である。

2 前年度の成果と課題

〈成果〉

○全教員担任制への生徒の理解も進み、学校、学年教員がチームとして課題に対応した。また上級学年ではリーダーの成長が見られ、教員に頼らず主体的に学級や学年をまとめていこうとする姿勢が見られるようになった。

○「授業改善推進校」の研究に全教科で取り組んだ。生徒の学習意欲を引き出す工夫を検討することから足立スタンダードの定着が一層図られた。

○読解力向上を目指した取組として新聞を活用した取組をさまざま実施し、社会や生活の中の出来事に触れ、知識や考えを深めることができた。

○長期休業中も含む年間を通して家庭学習ノート「東島根っ子ノート」を活用させることにより家庭学習が定着した。

〈課題〉

○タブレット端末を全教員が活用しているが、問題解決的な学習のツールとして活用できる教員は限られていて格差が見られる。

○足立スタンダードの授業展開はできるが、まとめ振り返りを丁寧に行うことで尚一層効果をあげていきたい。

○目先の損得に左右されない、将来の生き方を見つめ目標をもって努力する生徒を育成していきたい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	授業改善(生徒が主張する授業を創る)の推進	○	○	○	○	○
3	キャリア発達の促進	○	○	○	○	○
4						

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
意欲的に学習に取り組む生徒の増加 区学力調査通過率の向上		年度末学力定着確認テスト正答率 60% R4 区調査通過率 65%							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	タブレット活用の充実	全教員・ 全生徒・ 全教科	年間	・教員が授業内で映像提示だけでなく問題解決的な学習で調べ学習や思考の共有化のための活用(1人1台タブレット) ・長期休業中の課題や健康確認等に活用	年3回自己申告面接・授業観察・教員アンケート	・全教員が週1回以上課題解決のために活用 ・全学年が長期休業中に課題等で活用			

2 新規	AI ドリルの有効活用	全学年 5教科	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・5教科担当で活用方法の検討会の実施 ・数学の朝補習及び授業の導入時に活用 ・長期休業中の課題として活用 	年3回自己申告面接・授業観察・教員アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回検討会を実施 ・数学朝補習教室で毎回活用 ・数学授業の導入で毎回活用
3 継続	朝補習(+放課後補習)サマースクール	全学年 (指名・希望) 国・数・英 中心	年間を通して朝補習週4日定期テスト前に放課後補習	【指導者】 教科担当を中心に全教員 【取組内容等】 <ul style="list-style-type: none"> ・朝20分間学力補充 ・定期テスト前に放課後補習教室を実施 ・7月末～6日間のサマースクールによる学力補充 	今年度区調査の通過率 年度末学力定着確認テストの正答率	学力定着確認テスト正答率60%以上
4 継続	読解力向上・朝読書	全学年	年間を通して週4日	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書週3～4回20分間 語彙力向上の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・週1回読解力向上ワークシート・短作文 ・新聞活用(天声人語、新聞week) 	ワークシートや短作文の確認 R4区調査(国語観点別)	取組状況100% 書く力・読む力 全国値比較5%UP
5 継続	家庭学習の定着(家庭学習ノート)	全学年 全員	年間を通して毎日	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で家庭学習ノートの有効活用について指導 ・授業の振り返りを基にできなかった内容の克服、重要ポイントの復習 	ノート提出率 学力定着確認テスト	提出率80%以上 学力定着確認テスト正答率60%以上
6 継続	学習コンテスト	全学年 全員	年間4回	・国・数・英を中心に5教科で実施	各コンテストの正答率	正答率80%以上
7 継続	年度末の学力確認・補充	1・2年 全員 国・数・英	2月初旬～3月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・2月上旬学力定着確認テストを実施 ・学力定着が不十分なところを授業・朝・放課後等で補充 	学力定着確認テスト	学力定着確認テスト正答率60%

重点的な取組事項－2		授業改善(生徒が考え主張する授業を創る)の推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
全教科において主体的で対話的な授業の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に関する校内研究の実施 ・全教員が3回以上の主体的で対話的な研究授業の実施 				
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
校内研究・研修会の実施	・校内研究・研修会を年3回実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「生徒が考え主張する授業を創る」を設定し授業改善に関する研究・研修を行う ・問題解決となる学習過程を重視した単元指導計画・評価計画を作成する。 ・生徒が問題解決する場面を入れた学習指導案を作成し研究授業を実施する。ICT機器の有効活用 ・3観点による適切な評価について研修する 			
小中連携における合同研修会と研究授業	・合同研修会を2回、指導案検討・研究授業を6回実施	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となる授業づくり ・学習指導案に小中連携の視点を明記する ・講師を招いて教科指導法の研修を実施する 			

重点的な取組事項－3		キャリア発達の促進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	

キャリア教育における取組等を通して将来や今の自己の生き方について考え・表現できる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査「努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う。」85% ・区調査「地域に貢献できる大人になりたい」65%以上 	
--	--	--

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育に関する研修会を年2回以上実施 ・進路学習における体験学習の事前・事後学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路学習部を中心にキャリア教育に関する研修会を年2回以上実施 ・事前・事後学習で伸ばすべき能力を確認する場面等を創る 			
コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ。」55%以上 ・「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」60% 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科で言語活動を取り入れた工夫ある授業の実施 ・生徒朝礼の充実(発表場面の設定) ・2年生のプレゼンテーション面接の実施 ・校長講話200字作文の実施 			
自尊感情を育む実践	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査「自分にはよいところがあると思う」70%以上 ・生徒主体の活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の生徒・児童交流の実施(中学校体験、部活動交流、百人一首合同練習、合同演奏会等) ・学習コンテストや各大会上位入賞者等の表彰や掲示 ・生徒会による主体的な活動や学年リーダーによる学年行事の企画・運営 			

6 まとめ

- (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性
- (2) 保護者や地域へのメッセージ
- (3) その他(学校教育活動全般について)